

市場のあり方戦略本部（本部長インタビュー）議事概要

＜築地市場青果連合事業協会＞

平成29年5月11日（木）
開会11時25分、閉会12時33分
築地市場市場長室

【出席者】

○築地市場青果連合事業協会

泉未紀夫会長ほか

○東京都

中西副知事（本部長）、中央卸売市場長、中央卸売市場次長ほか

【議事概要】

（東京都）

- ・築地市場の事業者の皆様には、豊洲市場の移転の動きに伴い多大な御心痛をおかけしている。
- ・この4月に市場のあり方戦略本部を設置し様々な検討を進めているところである。検討に当たり、何よりも築地市場で働いている皆様の意見をしっかりお聞きすることが大切であることから、こういう場を設けさせていただいた。
- ・率直な御意見を伺い、知事にしっかり伝える役割と認識しているため、アドバイスいただければありがたい。

（青果関係団体）

- ・今回の開き方は大変遺憾である。知事は記者会見で、業界団体と自分がヒアリングをしっかりとやっていくとおっしゃっていたから、当然御自身が我々のヒアリングをするものだと思っていた。ぜひ公開で、膝詰めで我々と話す場をもっていただきたい。
- ・築地も豊洲も、法律的にも科学的にも安全だとすれば、安心という数値に置き換えられないものは、もちろん業界も一緒に一生懸命やりますから、この広まってしまった風評被害を知事自身の言葉で払拭する努力をしていただきたい。
- ・このインタビューの前に副知事と市場長宛てに青果部として質問状と要望書を提出した。まず4月26日に示された市場問題プロジェクトチームの第一次報告書素案（案）の中で、『青果の豊洲移転・水産物は築地市場改修で営業、という選択肢も考えられる』とあるが、中央卸売市場行政の責任者としてどう考えるのか。

（東京都）

- ・市場問題プロジェクトチームの素案に、水産・青果分離案が示されたことは承知している。同時に、将来のあり方の一つの選択肢という説明をされたと思っている。我々は豊洲市場の整備に当たり、水産と青果が一体となった総合市場として整備する考えの下にやってきた。知事の総合的な判断はこれからではあるが、分離という考え方は持ち合わせていない。

(青果関係団体)

- ・戦略本部の会議では、水産・青果の分離という案について議題として取り上げないでいただきたいという要望書を提出しているが、この点についてはいかがか。

(東京都)

- ・今、申し上げたとおり、豊洲市場は総合市場として計画しているため、青果と水産を分離するという考えは現段階ではない。ただ、知事からの下命は、幅広くあらゆる角度から考えるようにということなので、今後、素案について検討しないということは、現段階では申し上げられない。その点は御理解いただきたい。

(青果関係団体)

- ・青島都政時代に、現在地再整備が頓挫し、移転場所もはっきりせず、業界も一致できないという厳しい状況になったときにも、都に対して「水産、青果の分離移転はない。築地から移転する場合は、同時閉場、同時開場以外はあり得ない。」と言ってきた。環2の問題は30年前から出ているが、青果を追い出してしまえば用地ができ、築地市場の再整備ができると考えているならば大間違いである。水産仲卸の店舗を削らなければ環2もつながらない。
- ・青果部は、何があっても分離でいくことはない。その場合はハンガーストライキも辞さないつもりだ。

(青果関係団体)

- ・青果は豊洲に行けというならば、豊洲市場は安全だと自ら言ったことと同じではないか。
- ・我々は百年の計でやっている。自分の代で終わりなら築地再整備でいい。私の子供、孫、100年のものを作らなければどうするのだ。そして、この30年で量販店が躍進し物流が完全に変わった。モーダルシフトも全部変わっている。そういう中で、我々は将来を見据えて市場を作ってきた。これがやはり一番大きい。
- ・卸売市場は、物流センターではないという話はよくあるが、やはり物流センター機能を持たなければならない。それも量販店から小さなお客様までありとあらゆるものに対応できるものを、我々は考えて、考えて、何十年もかけて、あの今の施設（豊洲市場）を作ってきた。
- ・豊洲市場の計画を練っているときに、他のメンバーに伝えたのは「新しい酒は新しい革袋に盛れ」と。ここでは変えられないが、向こうへ行けばみんなのマインドもモチベーションも変わる。量販店対応からいろいろなことが全部できるよと。
- ・2、3年前に農林水産省へ東京五輪で納入させて欲しいと伝えたところ、今の市場ではできないと言われてしまった。だから、我々は、卸売会社を中心として3階に安全な加工施設を設置し、一次加工が最低限できるようにしていこうと考えてやっていた。それもパー。私は憤りよりも、自分が情けなくてしょうがない。
- ・大田市場が30年前にできて、約10年で旧神田なんて言う人は誰もいなくなった。大田市場が5年、10年で、なぜナンバーワンになれたのか。やはり建屋が違っていたからだろう。

(青果関係団体)

- ・我々が一番心配しているのは、今後どう生き延びるか。一刻も早く知事の判断をいた

だいて、ランニングコストなどいろいろな数値を示していただかないと、我々の行く末が見えない。

- ・量販店対応も素晴らしいことではあるが、現状のままの豊洲市場では物流の面でかなり不満がある。我々も移転前にいろいろと知恵を絞って考えてきたが、その辺でもう一工夫、都に考えていただければ、我々仲卸、水産も青果もかなり行く末が見えてくる。現状のままでは、水産と青果で築き上げてきた築地ブランドを引き継ぐことができないと思う。

(青果関係団体)

- ・築地市場の耐震補強後の現状を東京都のホームページで確認したところ、Is 値（構造耐震指標）0.6 以上であれば地震時に倒壊・崩壊の危険性が低いとされているが、青果部の建物は 0.55、水産部は 0.44 という状況で、今、補強（工事）ができるのかといえ、不可能に近いのではないだろうか。また、アスベストもあり多少の揺れでも飛散すると聞いている。
- ・昨日の BS 放送で、知事が東京直下型地震を危惧していたが、移転が 1 年先、2 年先となり、それまでの間に大震災があったらどうするのか。市場には、そこで働く職員だけでなく、産地の方や海外からの観光客も訪れる。何かあったときの責任はどうするのか。
- ・豊洲には土壌の検討課題に対し追加対策がなされると期待はしているが、今はベンゼンやシアンをチェックもできると聞いているので会社で測定機械を入れようと思っている。買いに来るお客様や産地の皆様に対して、データを逐一公表していこうかと。それくらい風評被害が大変である。いつ移転できるか分からないが、豊洲の風評被害が起きつつあり、収めどころがない現状を理解していただきたい。
- ・これまで、青果物にいろいろな業界が参入してきたが、結局出て行った。はっきり言って営利企業ではない。卸売市場内の営業というのは、生産地との連携をとりながら、需給バランスを調整し、お客様に販売して産地にきっちりお金を返し、来年度の生産も予想できるようにしてきた。そのような市場の社会的責任というものがあるということを訴えていきたい。
- ・築地で新しいビジネスモデルを展開することは無理である。車の待機する場所もない、荷物を下ろす場所もない、パッケージ施設もない、ましてや荷捌き場もない。温度管理もやっているが、微々たるもので、HACCP（ハサップ）をとれるレベルではない。
- ・過去は八百屋さんが多く、競売で買ってもらい商売になっていたが、スーパーが台頭してきて、そこに対応する物流機能が築地市場ではできてないのが現状。結果、取扱高も大田市場が伸び、築地では各店配送、1 店舗、2 店舗の取引はできても、エリアゾーンの展開は到底できない。豊洲でできる限りのことはしたい。卸、仲卸が一緒になり、販路拡大に向け豊洲市場の取扱高を増やす計画があったが仕切り直しである。
- ・先日のヒアリングでも、スーパーさんが、コールドチェーン、また HACCP（ハサップ）とおっしゃっていましたが、この構築がやはり望まれている。今までの市場は、物を集めれば売れた時代。これからは PDCA でブランドビジョンを作って、決めたものをいかに機能的に分配できるかが、プラスアルファである。
- ・築地でこれまでやっていたことも強化したいが、それだけではどんどん縮小する。築

地の良さを残しつつ卸売会社が筆頭となり、パッケージセンターや加工場を使い、仲卸さんと一緒になって輸出できるような形をつくる。築地が得意としてきたことはバージョンアップさせた上で、プラスアルファとしてこれまでできなかったことが豊洲ではできるというものを広げていきたい。プランはいっぱいある。どんどん時代が、周りの環境が変わっていく間に浦島太郎になりつつある現状を理解していただきたい。

- ・豊洲に行くとなれば、風評被害について都知事からは声明を公表していただきたい。メディアにも都にも協力していただいて、やはり風評被害というのを一つ一つ潰していきたい。
- ・現状からして、築地か豊洲かと問われること自体がおかしい。卸売会社としては、築地の再整備というのは99%難しいという感覚でいる。

(青果関係団体)

- ・築地の良さは、物流的には小さいながら水産とともに歩んできたこと。よく言われる築地の食文化というのは、総合的に商材を揃え、新しいものを世に問うていくこと。高級な料理屋さんから、普通のレストランまで、今までこういう流れがずっと続いている。水産、青果の分離はあり得ないと言ったのはそういう意味である。確かにネット販売はいろいろなものがあるかもしれないが、生鮮食品は現物市場。その中でも一番厳しい目を持っているのが、業務の料理人たちで、築地はそういう中で今日までやってきた。
- ・卸も仲卸もお客様の需要に合わせて休市対応をしている。正月元旦であっても、そういう商品には市場は対応をしてきた。休市日は、長い年月をかけて市場開設者や関係者が調整して決定してきた。日本人の習性として正月は休みたい。三が日は農家や漁港が休めるようにするため、五日初荷という歴史的な経緯がある。また、農産物も水産物もピークがあり、正月前後がピークになるところは開けてくれればとなるが、ほとんどのところはそうではない。
- ・やはり風評被害が問題。我々と一緒に風評被害を刈り取る努力を一日も早く見せていただきたい。
- ・みんな命懸けでやってきた。仲卸も八百屋も一国一城の主で社長である。それぞれ自分の経営があり、家族があり、従業員があり、その将来計画をもってやってきた。そこを一遍の相談もなく、パッとねじ曲げたのだから、1日も早く知事が答えを出すべきだ。知事には本当の心情を聞いてもらい、業界がどういうことで憔悴しきっているのか肌で感じてわかっていただきたい。これを先延ばしにすればするほど問題は深くなり、蟻地獄を這い出せない状態になってしまう。
- ・突然、豊洲に行けと言われても、ちゃんと我々が行けるようにしてもらわなければならない。一方、現地再整備は、青果部は40年前に親の世代が経験している。かなり苦労はしたが、当時は景気も右肩上がりで何とかみんなで頑張って踏ん張れた。今は世の中が難しくなり、右肩上がりが望めない経済の中で、5年も10年も、あるいはそれ以上耐えるだけの体力はない。

(青果関係団体)

- ・豊洲へ行った場合は、築地の良いものをバージョンアップすることと、あれだけの施設をどう利用しハブ市場となり得るかということ、早い段階からスタートしたい。

水産青果総合市場というメリットを生かして、輸出も進めていきたい。オリンピックも、HACCP（ハサップ）も、そういう目標値を作ってやればできる。

- ・豊洲市場には、ストック機能のある冷蔵庫や温度管理を高度化する設備を投資しており、放置すれば劣化するため運転し続けている。新たな市場を目指し、設備投資をしたのに、それがそのまま建屋に放置されている現状を、十分理解していただきたい。その施設を使って新しいビジネスモデルを作る構想だったので、早い決断をお願いしたい。

（東京都）

- ・青果部でもやはり豊洲移転はいかなものかという話もあるのか。

（青果関係団体）

- ・もっと我々の現状を見てほしい。確かに築地が好きだ。豊洲より働きやすいし、交通の便はいいし、何よりみんな築地を愛している。ここでやれば最高だと思っている。でも、現状を見るとそれは無理ということと言わざるを得ない。だから、風評を払拭し安心して豊洲なら豊洲に行けるようにしていただきたいと願っている。これだけマスコミで騒がれたのだから、同じ時間を費やしてでも払拭していただきたい。仲卸から、このままでは、向こうに行ったら商売が成り立たないという意見が出ている。
- ・もうこのままでもいいということも話には出ているような状況。どちらへ方向性をつけるか分からないが、動くには時間がかかると思う。

（東京都）

- ・豊洲市場はハード整備がほぼ終わっている状況であるが、それでも豊洲に行けば新しい試みができる可能性はあるのだろうか。

（青果関係団体）

- ・まずは風評被害や不安を払拭して、あちらでビジネスモデルを描いて一緒にやろうよという機運にいかにかせるかというところ。それが決まれば、施設面では雲泥の差です。我々も HACCP（ハサップ）がとれる施設を整備した。パッケージも、洗浄もできる加工場を整備した。だから、今後は輸出にも対応ができる。これまでは仲卸さんが独自でやっていたことも、卸と仲卸が一緒になってプレゼンできるような施設をつくってきたため、今後はいろいろな切り口ができる。
- ・これまでの築地の良いところ。今後も本当に良いものは絶対に押さえなければならない。築地は、高級品は強いが、中級品のボリューム的なところは弱かった。高級品も取るけれど、中級品も全部売れるよという姿勢を産地に見せることができればベストで、10t車全部築地へ持っていくよという方向になってくる。大田市場は断トツに取扱量も多いため独裁体制になっているが、最後のチャンスとして、今まで描いた新しいモデルが絶対にできるはず。やはりできるのは豊洲だけでしょう。

（青果関係団体）

- ・その象徴的なものが東京五輪の選手村への納入である。ただ、オリンピックの基準は厳しいと農林水産省に言われている。
- ・東北の地方紙のパネリストとして参加した際、築地が豊洲へ移転するに当たっての夢を聞かれた。具体的な夢の一つとして、福島の桃はちょうどオリンピックの最中が最盛期だから、築地の業界挙げて福島の桃を選手村に「福島県産ピーチ」と表示して食

べてもらう。これが、築地市場から福島県へのお礼の方法ですと語ってきた。そのために豊洲では十分な準備をしてきた。

- ・最後に3街区にある立体駐車場には便所がない。当初は11月7日の開場後に工事をするという話になっていたが、豊洲に行くとなれば準備に半年以上はかかる。その間に工事しておくべきだ。

(青果関係団体)

- ・今年の7月、8月に香港、10月にクアラルンプール、バンコクでブースを出して、豊洲の風評被害を払拭する意味もこめてプレゼンをしてくる予定。“世界の築地市場”イコール“豊洲市場”となるよう前向きに考えています。東京都にも期待をしているので、よろしく願いしたい。

(東京都)

本日は、お忙しいところどうもありがとうございました。

(以上)